

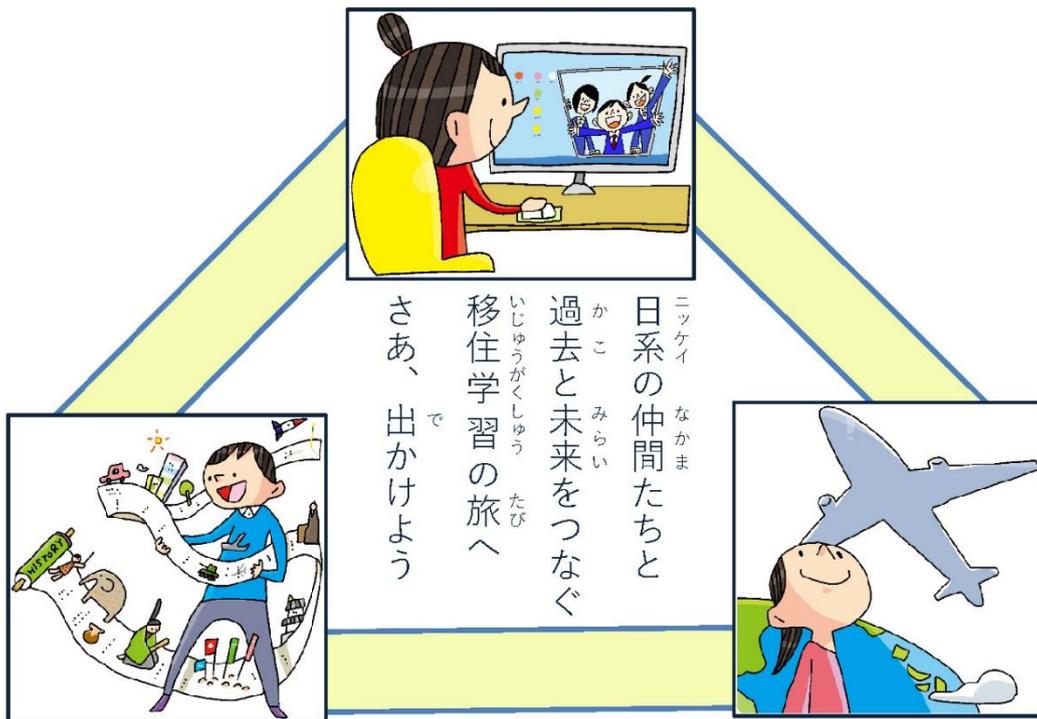
実施報告書

2020 年度日系社会次世代育成研修

(中学生招へいプログラム)

オンライン移住学習

2021 年 1 月 5 日～2 月 22 日



2021 年 4 月

独立行政法人国際協力機構（JICA）中南米部

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要	1
2. 参加者人数内訳（国・学校別）	3
3. 2020年度オンライン移住学習 プログラム日程	4
4. プログラム内容	5
5. 総評	18

【参考】 2020年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）
オンライン移住学習」募集要項



1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として1987（昭和62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

例年、本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒を本邦へ招へいし、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的として研修を実施しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来の訪日研修は実施不可となったことから、現地日系社会の12～15歳の生徒及び日系日本語学校の教師を対象としたオンライン移住学習を実施しました。日本人が「なぜ」「いつ」「どのように」アメリカ大陸に移住したのか、「どのように」ニッケイ・コミュニティを形成し、「なにを」を創出してきたのかについての学びを通して、課題解決能力やコミュニケーション能力を高め、コミュニティへの貢献意識の高い人材育成を目的としています。また、本学習活動を研修員が在籍する日系日本語学校と協働して実施することにより、継承教育の推進に寄与することを本研修では目指しています。

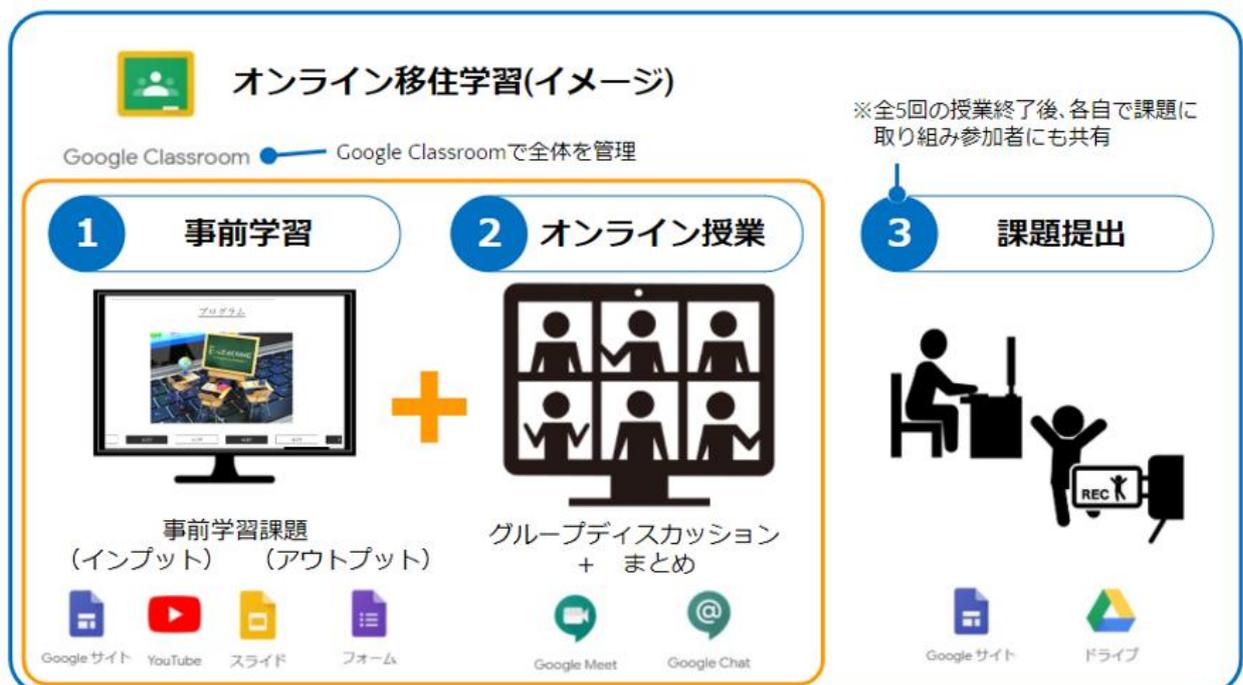
(2) 対象国および参加人数

10カ国42名（他に現地日本語教師8カ国15名）

受入 研修員(教師)	対象国	日本語コース		スペイン語コース		計	
		研修員	(教師)	研修員	(教師)	研修員	(教師)
10カ国42名 (8カ国15名)	カナダ	3名	(1名)			3名	(1名)
	メキシコ	4名		3名		7名	
	ドミニカ共和国			4名	(1名)	4名	(1名)
	コロンビア	1名	(1名)			1名	(1名)
	ブラジル	12名	(3名)			12名	(3名)
	ペルー	1名	(1名)	3名	(2名)	4名	(3名)
	ボリビア	3名	(1名)	1名		4名	(1名)
	パラグアイ	2名	(3名)			2名	(3名)
	アルゼンチン			4名	(2名)	4名	(2名)
	ウルグアイ			1名		1名	
		26名	(10名)	16名	(5名)	42名	(15名)

(3) 研修概要

テーマ	内容
移住の歴史・時代背景を知る	日本における海外移住の歴史的背景を知り、どうして人は移動するのか、移動する人の動機を探る
人の移動の意味・日系人の貢献事例を知る	人の移動によってもたらされた社会変化にはどのようなものがあるか考え、人の移動が起こった結果、新しい価値観が生まれたことに気づく
コミュニティの成り立ち・コミュニティが果たす役割を知る	移住した日本人が船内や移住先でどのように生活していたのか、入植時の仕事や余暇をどう過ごしていたのか、新天地での生活の中でどのようにコミュニティを形成していったのか、コミュニティの成り立ちについて考察する
コミュニティの魅力と課題を調査し、日系社会の未来を考える	日系コミュニティの成り立ちや社会への影響、現在の課題等、自分の地域の日系コミュニティについて考察し、次世代のコミュニティに必要な要素を発見する
自己のルーツとアイデンティティについて考える	自己のルーツを知り、アイデンティティについて考えていく中で、自己の特徴、強みを知り、社会にどう貢献していけるのか考える
最終プロジェクト	オンライン移住学習で得た知識の理解をさらに深めていけるよう、個々の興味・関心に応じてトピックを選択し、課題に取り組む（オンライン授業を終えてから、2週間以内に1点提出）



2. 参加者人数内訳（国・学校別）

国名	参加者数		在学中の所属機関名 (和文または英文)	日本語 コース	スペイン語 コース	現地日本語学校教師	
	研修員	教師				日本語 コース	スペイン語 コース
カナダ	3	1	日修学院	1			
			バーナビー日本語学校	1		1	
			モントリオール日本語センター	1			
メキシコ	7		日本メキシコ学院	3			
			MONTESSORI KALPILLI	1			
			Liceo Franco Mexicana		1		
			Centro Educativo Anglo Mexicano		1		
			Colegio Moderno Americano		1		
ドミニカ共和国	4	1	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校		2		1
			ドミニカ共和国日本語学校 ダハボン校		1		
			ドミニカ共和国日本語学校 南部校		1		
コロンビア	1	1	liceo frances paul valery中学	1			
			光園日本語センター				1
ブラジル	12	3	アライアンス日本語学校	2			
			アラカジ日本語学校	2			
			トメアス日本語学校	2			
			パラカツ日本語学校	1			
			バルジェンボニータ日本語学校	2		1	
			ピラールドスール日本語学校	2		1	
			ブラジリア日本語モデル校			1	
			マナウス日本人学校	1			
ペルー	4	3	ラ・ウニオン日系校	1	3	1	2
ボリビア	4	1	オキナワ第一日ボ校	1			
			サンタクルス普及学校	1	1		
			サンファン学園	1		1	
パラグアイ	2	3	アスンシオン日本語学校	1		2	
			ラ・パス日本語学校	1		1	
アルゼンチン	4	2	エスコバル日本語学校		1		1
			ラプラタ日本語学校		3		1
ウルグアイ	1		サン・イシドロ中学校		1		
合計	42	15		26	16	10	5

3. 2020 年度オンライン移住学習 プログラム日程

オンライン研修実施日（日本時間）

日本語コース： 1月5日（練習）、6日（練習）、12日、14日、16日、26日、28日

スペイン語コース： 1月7日（練習）、8日（練習）、19日、21日、23日、2月2日、4日

日程	時間	コース	内容
1月 5日（火）	8:00~9:00	日本語	オンライン練習日、ブリーフィング
1月 6日（水）	8:00~9:00	日本語	オンライン練習日、ブリーフィング
1月 7日（木）	8:00~9:00	スペイン語	オンライン練習日、ブリーフィング
1月 8日（金）	8:00~9:00	スペイン語	オンライン練習日、ブリーフィング
1月 12日（火）	8:00~9:00	日本語	1. 移住当時へタイムスリップ！
1月 14日（木）	8:00~9:00	日本語	2. こんなところで日本発見！
1月 16日（土）	8:00~9:00	日本語	3. 宇宙船に乗って
1月 19日（火）	8:00~9:00	スペイン語	1. 移住当時へタイムスリップ！
1月 21日（木）	8:00~9:00	スペイン語	2. こんなところで日本発見！
1月 23日（土）	8:00~9:00	スペイン語	3. 宇宙船に乗って
1月 26日（火）	8:00~9:00	日本語	4. 未来のニッケイ・コミュニティをデザインしよう！
1月 28日（木）	8:00~9:00	日本語	5. 自分探しの一歩先へ
2月 2日（火）	8:00~9:00	スペイン語	4. 未来のニッケイ・コミュニティをデザインしよう！
2月 4日（木）	8:00~9:00	スペイン語	5. 自分探しの一歩先へ
2月 16日（火）		日本語	最終プロジェクト提出
2月 22日（火）		スペイン語	最終プロジェクト提出

4. プログラム内容

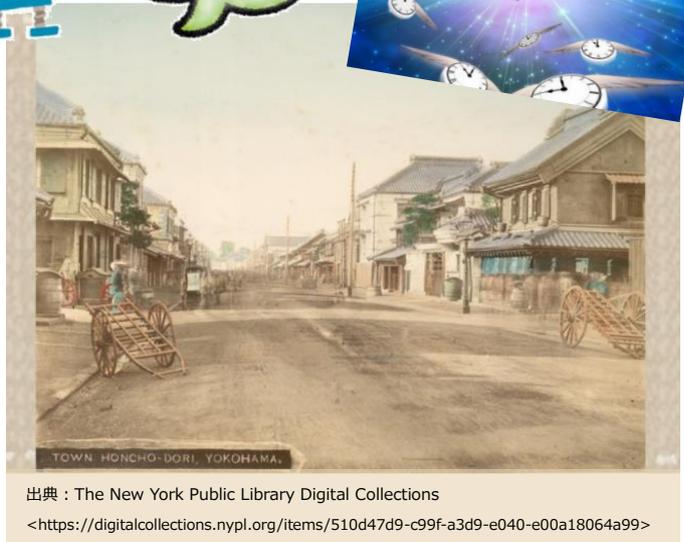


移住当時へタイムスリップ！

1日目



これから、タイムマシンに乗って、ご先祖さまがいる160年前の日本に行ってみよう。



出典：The New York Public Library Digital Collections

<<https://digitalcollections.nypl.org/items/510d47d9-c99f-a3d9-e040-e00a18064a99>>

研修員に質問！

YES? NO?

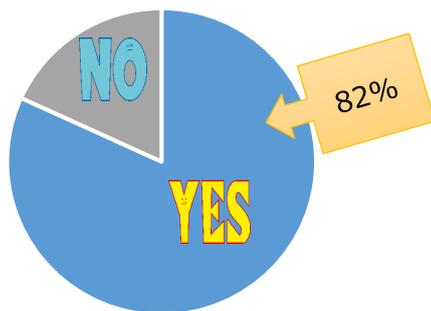


移住が始まったころの日本人の生活をのぞいた研修員たち。

もし自分たちがこの時代に生きていたら、どのような人生を歩んでいただろうかと考えを巡らせました。

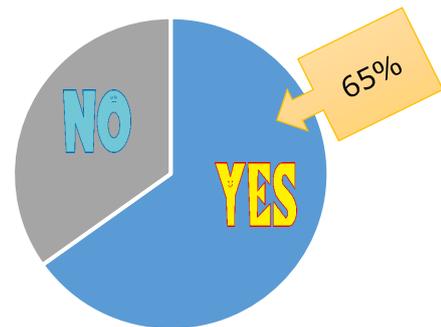
長い鎖国が終わり、海外へ出かける選択肢も手にした日本人。彼らが何を求めて、未知の世界での挑戦に踏み出したのか、その動機を探りました。

今の10倍、お金がもらえたら、
外国で働いてみようと思いますか？



■ 思う ■ 思わない

外国ではどのような生活になるかわかりません。
それでも外国で生活してみようと思いますか？



■ 思う ■ 思わない

移住するとしたら...



もし外国で生活するとしたら、
わくわくする気持ちと不安な気持ち、どちらが大きい？

■ わくわくする気持ち大きい ■ どちらも同じくらい ■ 不安な気持ち大きい



【わくわくすること】

- ◇ 新しい出会い、新しい環境、新しい習慣や新しい言語など色々な自分の視野が広がる事が何よりも楽しみです。
- ◇ その国の人たちはどんな人なんだろうと思ったり、文化や街並みはどんな感じなのか知ったりすることがわくわくすることかなと思います。
- ◇ 私が新しい生活でわくわくすることは、その国の食べ物とその国にだけあるものを体験することです。
- ◇ 友達をつくってその国の文化を学ぶことが楽しみです。現地の人の考え方により自分の考え方も変わることがあります。その国の文化の中で、音楽、食べ物、祭りなどに興味があります。

【不安・心配なこと】

- その国のルールが、自分が前にいた国と違ったり、言語も違うことがあるので理解できないことがあったりして、環境になれることが難しいです。
- 新しい友達を作れるかどうか心配なことです。人が意地悪だったら嫌だなと思います。
- 病気になったとき心配です。
- ひとりぼっちになることや、お金やサバイバルに必要なものを無くすことがいやだなと思います。
- 一番心配することは僕がどうやって犬を世話するかということです。嫌だなと思うのは家族に会えないことです。
- 私のおばあちゃんとおじいちゃんは二人だけでブラジルにいるからちょっと心配をします。
- 海外での生活が思ったようにいかないのが怖いし、人が優しくもないのが怖いです。

研修員の振り返りから

- ◇ 移住先の人たちとの交流や、新しい生活など色々なことが大変だったと思います。それでも、頑張って家族のために働いて生活してきた人々を本当に尊敬します。
- ◇ 移住した人々たちにとって一番つらかったのは、海外での生活が想像と違っていたことを実感したことだと思います。気候、仕事や新しい社会との関わりなど新たな困難に直面したことが、彼らが最も苦労したことだったのではないのでしょうか。

- ◇ その時代は情報がほとんどなかったので、どんな国なのかとか、言語や食べ物はどのようなものなのか、どのような環境なのか心配で、その環境に慣れることがとても大変だったと思いました。
- ◇ 今日、ラテンアメリカに移住してきた日本人の生活の違いについて学びました。例えば、日本人の移住者に人気の職業の一つが美容師であることを、今では知っています。移住者がどこで生活することになったかによって異なってきた文化の違いをもっと研究したいと思っています。

こんなところで日本発見！



2日目

2日目の授業では、身の回りにある日本らしいもの、日本文化について話し合いました。住んでいる国は違っても、共通した価値観や文化を大切にしていることに気づいた研修員たち。お互いをより身近に感じた様子でした。



こんなところで日本発見
身近なところにある
「日本」を探しましょう



「日本」「日本文化」「日本らしいもの」と
聞いて、どんなことやモノを想像しますか。

研修員に質問！

- ◇ 私は日本、日本文化、日本らしいものと聞いて、まずは日本人の性格を考えます。日本人の礼儀正しさや、かしこさや、迷惑をかけない文化を想像します。それと、可愛くて便利なものとか、面白くてちょっと変なものを思い浮かべます。でも、プレッシャーが多い社会だと思います。
- ◇ 日本文化と聞くと、お年寄りや先生たちを昔ながらに尊敬することが魅力です。他人を尊敬することがすごいと思います。日本らしいものと聞くとアニメを思い出します。日本のアニメは特別であって他の国が同じようにアニメを作っても日本のアニメはやっぱりおもしろい。
- ◇ 日本と聞くと、アニメ、寿司やラーメンなどの食べ物、ウルグアイよりも技術が進んでいること、清潔で整然としていること、自然災害（地震、津波）など、いろいろなことを想像します。あと、格闘技も。

- ◆ 日本語学校
- ◆ 日本の移民博物館
- ◆ 日本食レストラン、日本食品店
- ◆ 日本語を話すこと
- ◆ 日本の公園
- ◆ 仏教、神道
- ◆ 日本企業
- ◆ NHK
- ◆ 日本祭り、盆踊り、敬老会、運動会などの行事
- ◆ 餅つき、年越しそばなどの日本の習慣
- ◆ だるま、こけし、招き猫、市松人形、羽子板、浴衣、着物、お箸、茶わん、炊飯器、布団、線香、扇子、日本画など
- ◆ すし、ラーメン、カレーライス、すき焼き、さしみ、焼きそば、うどんなどの和食
- ◆ 日本舞踊、書道、合気道、空手、将棋、太鼓、折り紙、野球、相撲
- ◆ マンガ、アニメ、ゲーム、日本の音楽、カラオケ、ファッションなどのポップカルチャー、漢字のタトゥー、絵文字、車
- ◆ 靴を脱いで家に入ること
- ◆ 「いただきます」「ただいま」「おかえりなさい」「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶



住んでいる国や街、自分の家の中などに、
どんな日本文化や日本らしいモノがありますか。

これからも守り、伝えたい日本・日系文化

研修員が見つけた身の回りにある 日本の文化、日本の価値観



みんなで使う場所を大切にします。

どんなこと？

- 1. ごみはゴミ箱にする。(近くにごみ箱がなかったら、カバンに入れておいたり、ごみ箱があるまで手に持っておく。)
- 2. ワールドカップの時、スタジアムにはたくさんのごみがゆかにおちっていた。日本人だけが、そのゴミをあつめて、そうじた。
- 3. ブラジルの学校では生徒がそうしない。そうにする人がいるので、その人がけがする。自分がそうしなくていいからきたなくても、ゴミがあちていても気にしない。



ひなまつり



子供の日



たなばた



おりがみ教室



親友太鼓

太鼓です。



3.早寝早起き

日本人は昔から「日が照っているときに行動し、暗くなったら体を休める」と言う言いつけを守っています。

体をしっかり休めて日中働くとすごく仕事も集中できると思っています。



日本の価値観を広める

日系であることは、日本人の苗字だけではありません。日系人になるように価値観がなければなりません。だれにお互いに助け合う、いつもがんばっていると他人を尊重しています。日系コミュニティの価値観は尊敬、誠実、連帯、根気と感謝です。価値観のおかげでみんなはコミュニティで仲良くします。



敬老会



・ 9月に行われます。



・ 学校の生徒は合奏、合唱、踊りなどを発表します。

運動会

毎年、7月の始めに運動会が行われる。玉入れ、豆拾い、つなひきなどの競技がある。家族みんなが楽しむ日。



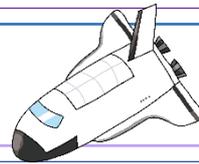
流しそうめん

9月に敬老者と日本語学校の生徒で流しそうめんをする。アマゾン暑さの中で、冷たいそうめんはとてもおいしい。



研修員の振り返りから

- ◇ 日本文化で大事なことは他人を尊敬すること。いつも自分よりグループを大事にすること。昔の日本文化が今でも続いていることに感心します。
- ◇ 移住してきた人たちが日本を忘れないように、日本文化を残してくれたんだと私は思います。
- ◇ クラスメイトの中には、私と同じように日本の習慣と物事を持っている人がいて、それが好きだけでなく、常に実践していることを知りました。
- ◇ 日本人は自分たちの文化を持ってきてだけでなく、それを移住先の国の文化にも適応させたということを学びました。その一例がガストロノミーで、私の国では熟したバナナを寿司に入れるように、日本食をここの伝統的な料理にアレンジしています。



研修員に質問！

まだ誰も行ったことのない惑星で調査員として暮らすことになった研修員たち。新しい生活でどのようなシステムが必要か、また、どのような心持ちでその惑星に住む生物と向き合うのか、アイデアを持ち寄り、グループで話し合いました。

100家族500人の地球人が、この惑星で快適に暮らすために、ほかにどのようなことが必要だと思いますか。



新しくこの惑星に住む地球人として、どのような態度で宇宙人と接したらよいと思いますか。

- ◇ リーダーが必要、選挙でリーダーを選ぶ
- ◇ みんなが承認できるルールを決める
- ◇ 協力、思いやり、我慢、ルールを守ることが必要
- ◇ 殺さないこと、盗まないこと
- ◇ 仕事をわけること、手伝うこと
- ◇ 敬意と優しさを持って行動する
- ◇ 宇宙人の行動がわからないので、慎重になる
- ◇ 宇宙人の生活文化、性格を知る
- ◇ フリータイムをもらうこと、8時間以上の睡眠を確保すること
- ◇ 快適な生活を保障するために週一回、ある問題やアイデアについて話し合う
- ◇ 良いコミュニケーションをとろうとする（言葉を覚える、相手を見下すことなく理解し合おうとする）
- ◇ 大人は地球で働いていた仕事をその惑星でもすること、子どもは勉強すること、高齢者は自由に暮らすこと
- ◇ 宇宙人に会ったら、まず自己紹介をして仲良くして、悪い人ではありませんという気持ちで接する
- ◇ 宇宙人たちの文化を尊重したり、自分たちのことをもっと知ってもらうために、普段私たちがしていることや文化を伝えたりすることが大切
- ◇ 宇宙人との問題がおきた場合に備えて、避難所としてのエリアや場所を配置する

研修員の振り返りから

- ◇ 今までこんなにいろいろな国の日系人と交流したことがありませんでした。3回授業をただけなのに、とっても仲良くなりました。しかも国は違うけどやっぱり日系人の思っていることや行動って似ているんだなと思ひ、考えていることが一緒っていうところがすごいなあと思いました！
- ◇ 今日の授業で、日本人移民は長い旅をしてきたため、船の中でゲーム、遊び、運動会もしたことを学びました。授業中、もっと祖父母に昔の話を詳しく聞いておけば良かったなと考えました。
- ◇ 自分とは違う人たちと共同生活を送るために最も大切だと思っている敬意や理想的なふるまいについて、私のグループの全員が、とても似たような考えを持っていることに気づきました。
- ◇ 祖父母たちが移住するときは大変だったと思います。家族と離れて、まったく知らない国に行くのにあまり荷物なども運ばませんでした。その新しい国で何が起こるかもわからず、不安な時もあったと思います。でも、若さと冒険心があったので頑張れたのだと思います。
- ◇ 何事においても助けることがキーワードです。助けることと、謙虚さがあれば、その行為だけで周りの人を一緒に幸せにすることができます。

未来のニッケイ・コミュニティ



4日目

4回目の授業までに自分が参加しているコミュニティやグループの特徴について、リサーチしてきた研修員たち。コミュニティの魅力や課題について様々な気づきを得ることができました。理想的なコミュニティの在り方を模索し、自分たちの役割についてもグループで意見を出し合いました。



住んでいる場所や学校、好きなことなど、共通のつながりによって、様々なグループやコミュニティが存在しています。

研修員に質問！



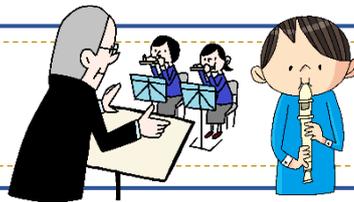
今、みなさんは、どのようなコミュニティやグループに参加していますか。

- ◇ 日系コミュニティ（日本人会、日本文化センター、文化会館、青年部（会）、県人会）
- ◇ 学校（現地の学校、日本語学校、英語スクール）
- ◇ 地域
- ◇ スポーツ（サッカー、フィギュアスケート、野球、バレーボール、陸上、ソフトボール、卓球、ジム）
- ◇ 文化・習い事（和太鼓、キーボード、パッチワーク、絵画、書道、ダンス、日本舞踊、よさこい、文学ワークショップ）
- ◇ 教会

研修員の振り返りから

- ◇ コミュニティを大きくして、もっと日系人がお互いの文化を知り合える場所を作ったり、この研修みたいに、いろいろな国の日系人が集まっているいろいろなことを話し合ったりしたいです。
- ◇ みなさんの日系コミュニティはすごいと思いました。いろんなイベントに参加しているし、日系の友達もたくさんいるし、うらやましいです！
- ◇ 私の国と他の国を比べたら、私の国には日本語学校がありません。35年後、みんなに子どもができれば、子どもに私たちが覚えたこと（礼儀や歴史）を引き継いでいってほしいです。
- ◇ 30年後も、やっぱり移民のみなさんのおかげで私たちがこんなに素晴らしいところに住んでいるということを思い続けてほしいです。会館があって、日本人が好きな野球とか運動会とか、日本語学校などをずっと続けてほしいです。日系人として、日本の文化がなくならないように頑張りたいと思います。
- ◇ 私たちは、日本語学校や日本人会に参加していて、運動会、日本語お話大会、太鼓、盆踊り、祭りなど、共通の活動をしていることを知りました。最初の移民が来てから今日まで、世代を超えて受け継がれてきた伝統です。
- ◇ 私の国では、夏祭りや、青年会、舞踊教室、太鼓などがあるのですが、あまりないところもあるので、日本の良さがほかの国でももっとわかるようになってほしいです。
- ◇ より多くの文化が混ざり合うコミュニティ、日系センターがほしいです。

自分のルーツを探る旅



5日目

日系ブラジル人3世の瀧上ラファエル広志さんによる講演ビデオを事前学習として視聴してきた研修員たち。尺八との出会いによって、自身のルーツを探ることになった瀧上さんのライフストーリーに大いに刺激を受けた様子でした。瀧上さんの奏でる尺八の音色によって呼び覚まされた祖父の幼い頃の母親との記憶、交流が途絶えていた親族を90年の時を超え探し出した瀧上さんの勇気、曾祖母や祖母に代わり熊本への帰郷を果たしたエピソード等、尺八奏者という夢に向かう過程で瀧上さんが自身のアイデンティティと向き合い体験してきた数々の出来事には、研修員を勇気づけ、心を動かす力がありました。



1947年、清人(祖父)とタツノ(祖母) 85歳の清人

瀧上ファミリーについて

1929年に、父方の家族は、熊本県からブラジルへ移民した。

一蔵 (曾祖父) 29歳 清人 (祖父) 5歳 清秀 (祖父の弟) 1歳 ヨシミ (曾祖母) 32歳



「日系人アイデンティティの再会
-尺八を通してかなえた、
熊本におけるルーツ探し-」
瀧上 ラファエル 広志 さん

お話を聞いた感想

- ◇ 印象に残ったことは、「ご無沙汰しています」という熊本の親戚の言葉。親戚はその言葉をラファエルさんに言いましたが、本当はラファエルさんのおじいちゃんやひいおじいちゃんに言いたかったことだからです。
- ◇ この話をとても気に入りました。尺八でブラジルの家族と日本の家族をつなげたのが素晴らしいと思いました。ラファエルさんが、ふるさとへ戻れなかった日本人の夢をかなえたと思いました。四世代目になって、はじめて日本の家族とブラジルの家族につながりができて、ひいおじいちゃんの心は安らくなった気がします。
- ◇ 一番心に残った場面はラファエルのおじいちゃんが子どもの頃の母が歌っていた歌を思い出した時です。おじいちゃんが歌っていたビデオを見て涙が出ました。
- ◇ 自分の人生を変えてくれるものはいつでも現れるんだなと思いました。
- ◇ 思ったことは、ラファエルさんが自分のことや祖先のことについてこんなにも話せるなんてすごい！
- ◇ 夢ができたらめげずに頑張ることはとても大事で、自分の人生の意味を教えてくれるようなものなんだなと思いました。子どもの時に与えられなかった自分探しのチャンスを大人になってから努力をしてかなえたところがすごく良いと思いました。
- ◇ 尺八のおかげで彼は考え方や生き方、そして自分の人生が大きく変わったと言っていました。ご先祖様に対する感謝の気持ちが深く理解できるようになりました。
- ◇ ラファエルさんは日本語を大人になってから覚えたのがすごいと思います。家族を探すモチベーションは何だったのか聞いてみたいです。お話はワクワクしました。
- ◇ 印象に残ったところはたくさんあります。一つの楽器で自分のルーツを見つけることになったことや、ラファエルさんとおじいちゃんの仲がいいところ、家族の家紋を知りたかったり、自分のルーツを知るためにいろいろと調べたりしたところ。ラファエルさんが見つけた手紙は本当に宝物になりました。
- ◇ 家族がペルーに来る前と来た後のストーリーをもっと調べたいです。ラファエルさんの話を聞いて、「私にとっての日系アイデンティティとは何だろう」と思いました。明日、おばあちゃんに移住について聞きます。
- ◇ 彼の祖父についての話し方が好きでした。私も祖父母が大好きなので、できる限り祖父母の世話をしていきたいです。
- ◇ 成長の過程で日本のルーツと結びつく機会に恵まれず、子どもの頃に習ったことを忘れてしまっている人はたくさんいると思うので、この遠い記憶の中からおじいちゃんが歌を思い出した場面が印象的でした。
- ◇ 家族の移住の歴史や自分のルーツについても調べてみたいというモチベーションになりました。
- ◇ ラファエルさんの話にとっても関心を持ちました。いろいろな面で日本の家族に会うことが難しくてもあきらめないで頑張りました。彼と同じように、私の国だけではなく、日本のことももっと勉強したいと思います。自分の日系アイデンティティのためにもっと日本を近くに感じる必要があると思います。
- ◇ 楽器のような小さなものでも家族を結びつけることができるということに感動し驚きました。自分の生い立ちや、移民時代にどんな生活を家族がしていたのか(家族の視点から)知りたいと思います。

自分探しの一步先へ



研修員に質問！

居住国と日本の文化を知る自分の強みは？ その強みや興味のあることを使って、将来どんな人になりたい？

- ◇ 住んでいる国の言語と日本語も話せるのが強みだと思います。そして、両方の文化を受け入れると人生は楽しいです。好きなことをやりながら、社会に貢献し、人生に対して積極的な態度を示す人になりたいです。
- ◇ 尊敬と寛大さは日系文化の強みです。私はその価値観を持っている人になりたいです。
- ◇ 両方の文化を知ること、現実を観察する「レンズ」が違うからこそ、世界を理解できるようになりました。おかげで、両方の文化についてより広い視野で考えて選択することができるようになりました。今は、人としての自分を磨き、人をよりよく理解するため、心理学の勉強をしていきたいと思っています。
- ◇ 両方の国の知識を活かして、二つの国の文化の良さを取り入れ、バランスのとれた人間になりたいと思います。どんな文化にもオープンで、温かくて生産的な人になりたいです。
- ◇ 私の強みは日系人と自国の人達の考え方を理解できることだと思います。コミュニケーションを通じて両文化の扉を開き、日系文化を発信し続けるとともに、自分の文化を最大限に活かしていきたいと思っています。
- ◇ 日系の文化の強みは尊敬と秩序、住んでいる国の強みは友情だと思います。
- ◇ 私の国の強みは、何があっても前向きな姿勢です。そして日系文化の中にある強みは、すべての人を尊重する姿勢です。
- ◇ 僕の国ポリビアも、日本も、相手の文化や生き方を取り入れることが必要だと思います。例えば、ポリビアは日本の正義正しさがとても必要だと思います。だから僕は将来、僕の国にもっと日本の文化やいろいろな考えを広げていきたいと思っています。
- ◇ 私の強みは二つの国の良いところを持てることで勉強や遊びなどで二つの国の勉強や二つの国の遊びが楽しめます。その分、経験や能力が普通の人の二倍、三倍あります。もちろん勉強や遊びだけでなくその他のこともです。僕は将来「この人という人」と言ってもらえる人になりたいです。
- ◇ 他の人に違いなど、相手が知らないことを話せるすごい人になりたいです。自分には趣味がいっぱいあるので、できることは全部仕事にしたいと思っています！
- ◇ 日系人の誠実で優しい心を生かして、医療分野の仕事につきたいです。
- ◇ 2つの文化を知っているからこそ、その文化について知らない人に教えられることが自分の中ではいいことだと思います。自分の強みはすぐいろいろな人と友達になれることです！私はまだ2か国語しか喋れませんが、次は英語やいろいろな言語が話せるようになって、将来色々な人と交流したいです。将来は発展途上国の人たちに協力できる仕事に就きたいと思っています！
- ◇ 両文化の知識を未来に生かせるようになったのが、私の強みです。弁護士になりたいと思っています。
- ◇ 日系文化を知ることで自分の文化をより深く知ることができます。日系文化との絆を持ち続ける人間でありたいと思っています。

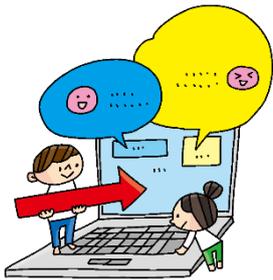
オンライン授業を終えて



研修員の振り返りから

- ◇ 今回の研修を通して、いろいろな国のことを知っている日系人の友だちができました！本当に嬉しかったです！いろいろな文化を知っている友だちがいると、本当に勉強できますし、何より国とか環境が自分と違うのもいいなと思いました。
- ◇ 最後の授業をして少し悲しいと思いましたが、みんなといつか会えることを願っています。そのためにもっと日本語の勉強を頑張りたいと思います。またもっと日系人の歴史を勉強します。今度こそ日本に行けるように。
- ◇ 本当に5日間、楽しくて毎日ワクワクしていました！オンラインでしたが、みんなでいろいろなことを話し合えて本当に嬉しかったです。学んだことは、それぞれの国のコミュニティは違うんだということや、コミュニティって大事なんだということです。一人ではすべて成功しません。周りの協力コミュニティが大事で、私もいろいろなコミュニティに支えられているんだと改めて実感できました。そして、私の祖先たちもきっと一人ではなく、みんなで海外生活を乗り越えたんだと思いました。祖先たちがやってくれたからこそ、今の自分があるんじゃないかと思います。
- ◇ 最後の授業もとてもよかったです。みんな日系人として将来、日本について何かをしたいです。みんなと友達になったから、ディスカッションはもっと楽しかったです。
- ◇ 授業で学んだことは私の国と日本の二つの価値観を理解したら、すごい人になれるということです。そして、新しいアイデアとしては日系人にもっと日本の文化や習慣を教えることです。この最後の授業でも考えました。例えば、「私は将来何をしたい？」「何になりたい？」「何を望んでいる？」まだ全部の答えは出ていないんですが、五日間でいろんなことを考えました。本当にありがとうございました。
- ◇ 今日最後の授業だったから、すごく悲しかったです。移民のことを学んで、友達も作ったし本当に楽しかったです。先生たち、ありがとうございます！
- ◇ みんなの意見を聞いて、これからの日系社会への貢献をどのように考えているのか学びました。短い時間でしたが、みんなの意見を聞くことができ、日本文化への知識を増やすことができました。
- ◇ 二つの文化を背景に持っていることが、自分の将来にどのように役立つのかを知識や習慣を交えて学びました。日本にいた家族が何をしていたのか、もっと知りたいです。
- ◇ 他の国の日系人がやっている活動や、自分たちに共通する活動について、より深く知ることができました。日系人コミュニティがもっと団結して、日系人の家族全員が参加できるような活動を増やして欲しいです。また、ほかの国の日系人が来たり、他の国の日系人コミュニティと知り合ったりできるような日系人コミュニティがあってほしいです。将来は、若い人たちをサポートして、日本文化をもっと教えてあげられるような人になりたいです。
- ◇ 自分の家族の歴史を知ることは、人として成長するのにとても役立つし、もしかしたら、新しい楽しみを見つけることができるかもしれません。これからも勉強を続けて、良い未来を手に入れたいと思います。

自由研究プロジェクトの作品紹介！



この5日間の学びをより深めていけるよう、研修員は最終課題として自由研究プロジェクトに取り組みました。おじいちゃん、おばあちゃんにインタビューをしたり、自分たちのコミュニティについて調べたりとそれぞれの興味や関心に応じてトピックを選び、発表方法を工夫した研修員たち。一人一人の強みや個性が発揮された素晴らしいプロジェクトが完成しました。

私は、いろいろな人が日系社会に興味を持てるような企画を動画で4つ紹介しました！音楽や字幕を工夫して実際におすすめの料理を紹介したり出来るだけわかりやすく作ったので見てもらいたいです！



わたしは祖母にインタビューしました。おばあちゃんにブラジルにどう来たかについてききました。おばあちゃんが住んでいるところの庭でビデオを録画しました。とても良かったです。ここで一生懸命、頑張りました！

紹介の仕方は新聞のように書きました。全体的に見てほしいので目が一番うつるような色や塗り方をしてみました。写真も貼っているの見やすいと思います。また途中でドラえもんを見ることができるので小さい子どもにもわかりやすいと思います。



日系コミュニティがある自分の街を紹介し、学生が訪れるべき場所を紹介することにしました。私の街の様々な場所を紹介するパンフレットのようなものです。



自由研究プロジェクトの作品紹介!



2020年度日系社会次世代育成研修 オンライン研修

PROYECTO DE INVESTIGACIÓN
31 DE ENERO AL 3 DE FEBRERO DE 2021

Entrevista a mi abuelo (miembro)
Nació en Elmeré - Sur en 1945
Salí del puerto de Kobe en 1967 en el barco Argentina Maru rumbo a Brasil
(Sentí) sin saber en ese momento que mi destino final sería Uruguay.

¿Por qué decidiste migrar?
Desde chico quería ser futbolista pero mi familia (ad todos) trabajaban en oficinas y comprar una tierra sería muy caro, por eso cuando tuve la oportunidad decidí migrar a Brasil.

¿Cuándo llegaste a Uruguay?
Llegué a Uruguay en 1973 y ese mismo año me casé.

¿Viviste con intención de quedarse o tenías pensado volver a Japón?
Si, cuando voyé tenía la intención de quedarme a vivir en Sudamérica.

¿Qué es lo que más se te dificultó al llegar a Brasil?
Fue adaptarme al idioma del campo en donde viví en Brasil, porque yo venía de Tokio acostumbrado al sonido de la ciudad y de los automóviles. También se me dificultó el idioma pero como vivía en una comunidad Nikkei, no fue tan difícil comunicarse.

¿Qué es lo que más extrañaste de Japón cuando te fuiste?
Estaba allí mucho a mi familia, mi casa, a mi amigos y a Japón en general. Fue difícil acostumbrarse a algo tan nuevo pero no me arrepiento.

¿Qué llevaste cuando emigraste? ¿Te sirvieron?
Llevé muchos libros, ropa, comida y algunos remedios. No tuve demasiadas cosas porque tenía conocimiento en Brasil que me dijeron que allí había más cosas por si me faltaban, por eso no me preocupé tanto.

¿Fue fácil conseguir trabajo?
Yo tenía un trabajo en Brasil antes de ir. Un comercio más que había migrado a Brasil y que había vuelto de vivir a Japón, me ofreció trabajo si yo migraba. Por eso para mí no fue difícil conseguir un trabajo.

Dairi KAJIHARA 梶原 ダイキ (14 años)
Montevideo - URUGUAY

4.¿AL LLEGAR A REPUBLICA DOMINICANA, COMO FUERON RECIBIDOS?

30年後どういう日系社会であってほしいか

パラグアイ生まれで構成する日系社会になっていると思うが、日系人としての誇りを忘れず胸を張って生きる日系社会であってほしい。

また、日本を理解するには日本語を理解することが欠かせないと思うので日本語教育にも力を注いでほしい。日本語文化の日系人として大切であると思うのでそうした面にも力を注ぐ社会であってほしい。

これからラバスの日系社会を担う若者に一言

「日系人であることを誇りに思って活動してほしい。

皆様のお爺さん、お婆さん、おとうさん、おかあさん、が未知の国に移住して食べることも欠く移住地で不自由な生活をされ、苦労されて築いてこられた移住地やご家庭を十分理解して無駄にしないように、良く噛み砕いてさらなる発展を目指して生活してほしい。

自分達は日系パラグアイ人であることを自覚してパラグアイ社会でのリーダーになって活躍してほしい。さすが日系人であると言われるようになってほしい。」

お花見プロジェクト

コロンビアにはグアヤカンという大きな木があります、この木は日本の桜の木と、大変よく似たピンク色の木です、コロンビアでは10月と1月に咲きます。

グアヤカンの木の下で日本の文化を理解して欲しいです!

カリ市の役所でお花見プロジェクトを提案したいです、もしこのプロジェクトが役所の方に気に入ってもらえたらあとはカリ市の公園や広場に沢山のグアヤカンの木を植えて貰って花が満開になったらお花見プロジェクトを実行したいです、これを機会に日本とカリ市の文化の交流をしさらにビジネスもできれば良いと思います。

En 1962 mi abuelo Tomegoro Harima que en ese entonces tenía 16 años, salió del puerto de Yokohama junto con su familia con pocas pertenencias.

Mis abuelos en el barco

夏祭り 2022 日本

2月 15日 (土)

時間 3 p.m ~ 10 p.m

場所 PONTÃO DO LAGO SUL BRASILIA - DF

パンフレットはインターネットで配る。

MATSURI 2022 JAPÃO

15 FEBREIRO (Sáb)

HORARIO: 15H ~ 22H

LOCAL: PONTÃO DO LAGO SUL BRASILIA - DF

Fiesta Cultural Japonesa

¡Todos los Domingos!

ABRERE CASAS COMO:

- HISTORIA DE JAPON
- TRADICIONES JAPONESAS
- VALORES Y ATENCIÓN DE LOS ZENKUS
- COMO HACER UN CEMENI TRUEND
- FIESTAS Y ACCIONES DE FEMENAS
- NO TE LO PIERDAS!!!

DE 9:00 A 18:00

Japanese Summer Festival!

2021.7.26 15:00 - 20:00

自由研究プロジェクトのコメント



◇ 日本にしかない夏祭りを通して、日系の良さなど、日本についてもっと知れるような大きいイベントを計画したポスターを描きました！夏祭りなら、もちろん日本定番の食べ物やグッズ、踊りやゲームなど、真剣に話を聞くより実際に経験して楽しんでもらいたいなと思いました！水風船を初めて描いたのですが、自分なりに上手くいった気がします！

◇ 私が取り組んだプロジェクトは、新型コロナウイルスが流行りだしてから感じていたことで、改めて日本人の価値観の良さを伝えたいと思いました。母や先生に日本人の考えを教えてくださいました。



◇ 両方のおじいちゃんに日本からブラジルへの移住の話をしてもらいました。ビデオで撮影をしました。両方とも大変なことに出会いましたが、一生懸命働いて成功に向かいました。そのおかげで、私たちは良い生活ができると思います。おじいちゃんとおばあちゃんにいつも感謝します。おじいちゃんたちと移住の話ができて、とても嬉しかったです。自分の家族のことをもっと知ることができて、こういう機会はとても大事だと思いました。これからもっと日本語を勉強しておじいちゃんと話をしたいと思います。

◇ コロンビアに日本の文化を紹介するためにこのプロジェクトを思い付きました。日本の桜によく似たグアヤカンの木の下でいろいろなことをして、食べて皆と過ごす。最後に、コロンビアと日本の民族楽器の演奏をいつか聞きたいと思いました。写真の中の桜とグアヤカンが似ているところを見て欲しいです。日本とコロンビアの似ているところを探すのが難しかったけどがんばって見つけました。

◇ 私のプロジェクトのテーマは祖母です。祖母は14歳の時にブラジルへ移住しました。面白いテーマだと思っていましたから、祖母に質問して作文を書きました。この作文は、祖母の物語です。

◇ 私のプロジェクトは日本の夏祭りを参考にして、日本や日系の良さを紹介できるイベントの計画です。場所や日にちやプログラムなども考えました。見せるだけのイベントではなくて、みんなが楽しんで参加できるような遊びも入れました。それと、大体200~300人ぐらいの参加者を考えました。私はこのようなプロジェクトを考えるのは初めてなので、パワーポイントのスライドのバックグラウンドやパンフレットを作るのに時間がかかりました。それと、いろいろなユーチューブの動画を見たり、日本の祭りのサイトを読んだりして、流行っているものとか、楽しいものを見てまとめました。



◇ 僕のお父さんは一世代からインタビューが良かったと思います。インタビューのほかにもっと言いたい事がありました。長くなりますので、最初に質問を見せてから答えてもらうようにしました。お父さんが答えている時、移住した人達の大変さが分かりました。

◇ 正直なところ、このプロジェクトは自分の持っているものを大切に、日本の習慣を守るのに役立ったので、本当に楽しかったです。

◇ 祖父母の家を訪ね、祖母が暇だったので、課題を手伝ってくれるかどうか聞いてみました。話を始めてから、私は祖母に何も質問をしていないことに気づいたのですが、祖母はとても興奮して、私がこの課題に必要なすべてのことを私に話し始めました。祖母が色々な話をしてくれたので、メモは7ページもありました。なので、そんなに長くないように、自分が一番面白いと思った話や重要だと思ったポイントを詳細にまとめてみました。



◇ インタビューの質問リストを考えて書きました。そして、出来事が起こった時代にあわせて、カラーパレットを選びました。家族の助けを借りて、いくつかの写真を集めて作品に加えました。祖父の話を強調したかったので、わかるように書こうと思っていたのですが、家族のおかげで写真を追加することができました。この作品のおかげで、自分の知らなかった家族の過去を知ることができました。

◇ 一世の移民である私の(母方の)祖父にインタビューしました。彼は日本からブラジルに移住し、ウルグアイに来て祖母と結婚して家庭を築きました。私にとって一番苦労したのは、祖父が言ったことを日本語で訳すことでした。また、祖父の移住の歴史についても詳しく知ることができました。

◇ 日本の文化を教えてください、みんなでゲームやアクティビティをしたり、日本の代表的な食べ物やお土産を販売したりする“祭り”を考えました。会場は日本人会の本部で、出店の担当は日本語学校の生徒とボランティアの方です。普及の形としては、多くの人が行く場所にポスターをはったり、ソーシャルネットワークを利用したりします。私が最も強調したいのは、アクティビティゲームです。みんなでワイワイと楽しめるので、家族みんなで遊べるようにもって知ってほしいです。



現地日本語学校の先生たちに感謝！



今回のオンライン移住学習を強力にサポートしてくれたのは現地日本語学校の先生たちです。現地の日本語学校も対面授業からオンラインに切り替えている学校が多い様子。担当授業等で忙しいスケジュールの合間を縫って、生徒たちと一緒に15名の先生がこのオンライン授業に参加してくださいました。先生たちの温かい人柄はオンラインであっても画面越しに伝わり、長年の教師経験や研修員たちを惹きつけるグループの雰囲気づくりによって、研修員は安心できる環境でディスカッションに臨むことができました。仲間たちと一緒にテーマについて考える中で、研修員はグループの一員として自分の意見やアイデアを出すことができ、グループの話し合いに貢献できたことが研修員にとっての自信や授業の満足感にもつながっていた様子でした。オンライン移住学習を支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。



15歳の子どもたちは最後の中学生プログラムのチャンスだったのに、そのチャンスに挑むことすら叶わず、言葉では表せないほどの無念さ、悔しさ、悲しさなどが入り交じった気持ちで去年は過ごしたと思います。それでも、日本へ行けなくても、このような機会をいただいて、異なる国の仲間、しかも南米だけではなく北中米の日系の学習者と知り合えたことは、ほんの小さな一時の出来事だったのかもしれませんが、学生時代の一つの思い出であり、これから長い人生の中でどこかの場面で何かしらの役に立つものだと思っています。

日本語学習者、そして我々日本語教師にとっても、とても貴重な経験でした。14、15歳の学習者に適切な内容、進み方でとても良い研修でした。事前学習や振り返りシートのまとめでは、参加者たちが自分で色々想像しながら自由に書いたことが伝わります。最終プロジェクトも現代の若者たちの得意技術を使い、素敵なプロジェクトが生まれ、とても頑張ったことを感じます。これからも子供たちにたくさん日本語を勉強してもらって、子供たちの日本へ行く夢を叶えることに協力し続けたいです。



私の生徒も、様々な国々の学習者、さらには同世代の友達と知り合うことができた大喜びです。早速、同級生に、惑星に持っていきたいものを聞いていました。貴重な体験をさせていただいて、自分のクラスの授業にも活用させていただきます。

5. 総評

明治元年（1868年）、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人のアメリカ大陸への移住の歴史は150年以上の歴史を有しています。その間、各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本との繋がりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修では、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、ホームステイや体験入学といった日本で生活する人々との交流、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、従来訪日での研修は中止となりました。世界中が前例のない危機に瀕し、大切な節目や恒例行事の多くを諦めざるを得なかった中、訪日研修を目標に日本語学習に励んできた各国日系社会の12～15歳の学習者もまた、五感を用いた訪日研修の醍醐味は体験できませんでした。このような状況下で、研修員の継続的な日本語学習に対するモチベーション及び家族のルーツに対する関心を高められるよう、オンラインによる移住学習を実施しました。

オンライン研修では、異なるバックグラウンドを有する研修員が基盤となる知識をインプットし、トピックについての意見やアイデアを構築できるよう、ライブ授業の前に事前学習を設け、続くライブ授業では他者との学び合いができるグループディスカッションを取り入れました。同年代の研修員との意見交換は、各々の思考の幅を広げるとともに、より多角的に考察する機会にもなり、また、さらなる学びの追求へとつながっていきました。

オンライン授業で初顔合わせとなった研修員でしたが、日本語・スペイン語両コースともに、居住地の異なる研修員同士の活発な交流がオンラインでも実現しました。初日の授業終了後、研修員から「もっとみんなと仲良くなりたい」「みんなのことをもっとよく知りたい」との声が聞かれたことから、授業終了後に毎回、1時間程度オンラインルームを開放することとしました。これにより、約半数の研修員が授業後もオンラインルームに残るようになり、各々の日常生活や興味のあることについて、画面共有機能なども巧みに使いこなしながら、話に花を咲かせていました。時には自身の部屋にあるお勧めのマンガや自宅で飼っているペットを紹介したり、楽器を持ち出し演奏してみたりと、自由な雰囲気の中でオンラインならではの交流を楽しんでいる様子が印象的でした。

5日間の授業終了後に各々が取り組んだ自由研究では、家族のルーツや身の回りの日本文化、地域コミュニティについて理解が深まっただけでなく、豊かな発想力や自身の強みを生かした発信方法についても試行錯誤しながら各自取り組んだ様子が見受けられました。実際に家族にインタビューをした研修員からは「おじいちゃんたちと移住の話ができて、とても嬉しかったです。自分の家族のことをもっと知ることができる機会はとても大事だと思いました。これからもっと日本語を勉強しておじいちゃんと話をしたいと思います」とのコメントもあり、時代の流れとともに移住を知る人から話を聞く機会が減りつつある現代において、本研修の課題をきっかけに家族揃って移住当時の話を聞き記録に残せたことは、家族のルーツをしっかりと受け継ぎ、後世にも伝えていく貴重な

機会になったといえるでしょう。

また、初の試みとなったオンライン移住学習を実施するにあたり、現地日本語学校との協働も実現しました。本研修には8カ国より現地教師15名にサポート要員として参加いただき、グループディスカッションではファシリテーターとしてグループの話し合いをまとめ、面識のない研修員同士でも安心して意見を共有できる環境を様々なアプローチを用い整えていただきました。実際に移住学習の実践に立ち会い、学習の手法及び研修員の反応や学習効果を実感する機会を現地日系社会の日本語学校で生徒たちと日々接する教師の皆さんに作れたことで、本研修から着想を得た現地校オリジナルの移住学習にもより取り組みやすくなるのではないのでしょうか。本研修の上位目標とされている「日系社会での日系継承語教育の振興を促し（略）」に現地日本語学校の教師側からもつなげていくことで、より多くの日系子弟に移住学習の機会を普及することができるのではないかと考えます。

オンライン研修を通じ、実際に同世代の日系人と会話を重ねていくことで、研修員はお互いに学び合ったことを自身の気づきへと変え、日系人としての意識も少しずつ芽生え始めた様子でした。中学生という発達段階における研修員にとって、具体的な未来像を思い描くにはまだ時間と多様な経験を要しますが、「私は将来何をしたい、何になりたい、何を望んでいる、それらについてまだ全部の答えは出ていないですが、5日間でいろんなことを考えました」と自身の内面と真剣に向き合う研修員の姿が本研修で見受けられました。研修員一人ひとりが、日系アイデンティティについて自身の考えをさらに深め、日系社会の一員として社会に貢献していけるようになるには、移住学習のほか、実際に日本を訪れ体験する文化・価値観、人との出会いが彼らの人生において不可欠であることは言うまでもありません。しかしながら、訪日研修が中止となった状況下で、北はカナダから南はアルゼンチンまでの10カ国42名の研修員が、同世代の日系人と時間を共有し日系のネットワークを構築できたことは、研修員の今後の日本語学習や日系社会との関わりにおいて新たな原動力となっていくことでしょう。

「私の強みは、日系人コミュニティや自国のコミュニティにいる人の考え方を理解できることです。コミュニケーションを通じて両文化の扉を開き、日系文化を発信し続けるとともに、自国の文化も最大限に活かしていきたいです」と今後の抱負について言及した研修員がいましたが、今回の学習で得た学び及びこれから体験していく様々な学びを、今後出会っていく人々と共有し、各国日系社会と日本、さらには世界へとつなげる架け橋となっていけるよう、研修員一人一人のさらなる成長に期待しています。

2020 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）

オンライン移住学習」募集要項

2020 年 8 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）

2020 年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）
オンライン移住学習」募集要項

1. 目的

日本人が「なぜ」「いつ」「どのように」中南米に移住し、「どのように」ニッケイ・コミュニティを形成し、「なにを」創出したかについての学びを通して、課題解決能力やコミュニケーション能力を高め、コミュニティへの貢献意識の高い人材を育成します。また、本学習活動を中南米の日系日本語学校と協働して実施することにより、中南米継承教育の推進に寄与することを本研修で目指します。

例年、研修員を本邦へ招へいし研修を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、中学生及び日系日本語学校の教師の方を対象にオンライン移住学習を3言語のコース（日本語、スペイン語、ポルトガル語）で実施します。

2. 対象国および各国人数枠

11 カ国 計 70 名(日本語 40 名、スペイン語 20 名、ポルトガル語 10 名)

対象国	日本語コース	スペイン語コース	ポルトガル語コース	計
	人数枠	人数枠	人数枠	
カナダ	6			6
ドミニカ共和国	1	6		7
メキシコ	4	4		8
コロンビア	1	2		3
ベネズエラ	1	1		2
ブラジル	16		10	26
ペルー	3	1		4
ボリビア	3	1		4
パラグアイ	3	1		4
アルゼンチン	2	3		5
ウルグアイ		1		1
合計	計 40 名	計 20 名	計 10 名	計 70 名

※他国からの参加者との日本語による活発な意見交換や日本語コースへの参加を推奨します。

※2020 年度第 1 陣仮合格者 13 名については、2021 年度来日の事前学習として基本的には参加いただきたいですが、事情により参加が困難な場合は、その人数枠を該当国内に割り充

て、参加不可の仮合格者に対しては仮合格を取り消すものではありません。なお、日本語コース及びスペイン語コースのどちらを選択するかは仮合格者の選択とします。

※ウルグアイは2020年度第2陣参加予定者を対象としますが、参加が困難な場合はウルグアイ国内で他の参加希望者を募集し、その場合でも2020年度第2陣参加予定者の2021年度研修の参加資格を取り消すものではありません。

※在外事務所が横浜センターに応募書類を提出した時点で人数枠を下回る国については、他の対象国に人数枠を割り充てる調整を行います。

※上記人数枠は中学生を指し、参加が決定した日本語学校に対しては別途協力可否を相談、調整する予定です。

3. 実施期間（予定）：2021年1月中旬～2021年2月上旬

（各コースの実施日は以下の通り）

- ① 日本語コース：2021年1月11日（月）、13日（水）、15日（金）、25日（月）、27日（水）

（日本時間；2021年1月12日（火）、14日（木）、16日（土）、26日（火）28日（木））

- ② スペイン語・ポルトガル語コース：2021年1月18日（月）、20日（水）、22日（金）、2月1日（月）、2月3日（水）

（日本時間；2021年1月19日（火）、21日（木）、23日（土）、2月2日（火）、2月4日（木））

* いずれのコースも日本時間午前8時開始

4. 実施概要

別紙1を参照してください。

5. 応募資格要件

・ 中学生

(1)または(2)に該当し、(3)以下すべての要件を満たすことが必要です。

- (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住しており（主たる生活基盤があること）、日系日本語学校に通学している者、または通学希望の者。プログラム参加時点で、原則、日本の中学生相当（12歳以上、15歳以下）であること。

- (2) 2020年日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第1陣の仮合格者。

- (3) 親権者または保証人の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

- (4) 日本語コースについては講義を日本語で受講し、かつ議論に参加できるレベルの日本語能力を有すること。

- (5) 移住学習についての理解を深める強い意欲があること。
- (6) 原則、JICA 指定の全プログラムに参加できること。
- (7) オンライン移住学習に参加するに当たり、各参加者は自宅で受講することを想定しています。参加に必要な機器(PC やスマートフォン)、インターネット環境は各自で準備いただきます。また、受講の際は PC またはスマートフォンのカメラを使用します。なお、グループディスカッション等お互いの画面共有の関係から、PC からの参加を推奨しますが、難しい場合はスマートフォンからの参加も可とします。
- (8) 教材の著作権や講師・他の参加者の肖像権について参加前の注意事項を順守いただくこと。

6. 応募書類

- (1) JICA が指定する以下の様式を使用して応募してください。

応募用紙（身上書）…1 通（別紙 2、別紙 3）

氏名：この書類に書かれた氏名の表記（漢字・ひらがな・カタカナの区別も含みます）にしたがって、修了証書を作成します。読みやすい字で記入してください。

- (2) 所有していれば、以下の書類も応募と同時に提出してください。

※PDF または写真添付も可能

ア. 日本語能力試験認定書等日本語能力に関する証明書類…写し 1 通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

（注 1）上記（1）の書類は必ず本人が作成してください。

（注 2）上記（1）、（2）の書類に記入漏れや正確に記載されていない点がある場合、またすべての書類が JICA 在外事務所の募集締切日（各国によって異なる）までに完全に揃っていない場合は受理されません。

（注 3）提供された個人情報は、①合否の判定、②プログラム実施の準備、③事業実績の取りまとめ等の統計資料の作成のみに利用します。なお、学校名や氏名等、一部個人情報を JICA の広報に使用する場合があります。

7. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所により決定されるため、各在外事務所の指示に従ってください。メールでの応募も可能とします。

8. 参加の資格取消

参加者が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがあります。

- (1) JICA の指示および決定に従わなかったとき
- (2) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、プログラムの参加を継続することが困難と認められるとき

- (3) 本人の都合により参加を中断したとき
- (4) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (5) その他 JICA がやむを得ないと認める事由があるとき

9. その他の留意事項

- (1) 応募者は、事業対象国の国籍を有すること（あるいは日本の国籍を有すること）が望ましいです。
- (2) 合格者は肖像権の承諾書を提出してください。
- (3) 本オンライン移住学習と通常実施している来日研修では、参加・資格要件が異なることから、本オンライン移住学習への参加が来年度の来日研修への参加を保証するものではなく、来日研修の参加希望者は改めて来年度にご応募いただき、通常通り選考を行います。

以上

別紙 1：「日系社会次世代育成研修（中学生）オンライン移住学習」実施概要

別紙 2：「日系社会次世代育成研修（中学生）オンライン移住学習」中学生用応募書類様式